

長期持続的経営を目指す企業のネットワーク組織

「100年経営の会」スタート

日刊工業新聞社

日刊工業新聞社は、長期持続的経営を目指す企業のネットワーク組織「100年経営の会」を設立した。17日に東京・丸の内ホテルグランドパレスで設立理事会・総会を開き、同会会長に北畑隆生元経済産業事務次官が就任。岡谷篤一岡谷鋼機社長、茂木友三郎キッコーマン名誉会長、岡村正東芝相談役、宇野郁夫日本生命保険相談役らが「100年経営会議議員」に、旭化成や出光興産、キリンビール、島津製作所、日本IBMなどのトップが理事に選出され、総勢25社が会員に名を連ねてスタートした。



活動方針や定款などが議論された

長寿企業の優れた手法 理論化し国内外に発信

100年経営の会は、過去に多くの危機を乗り越えて成長を続けてきた長寿企業の経営手法を学び合い、企業の経営力の向上と産業界の持続的発展を目指す組織で、総会には長寿企業の経営者や有識者など産学官から有

かなメンバーが結集した。同会顧問にはモンテ・カセル立命館副総長、塚本修東京理科大学学術政策教授、高津隆徳帝国データバンク史料館館長、作家の北畑利氏が就任。北畑隆生会長は総会後に「取引先、従業員、地域社会を大事にしてきた日本の長寿企業の持つ価値を国内外に広げていきたい」と力強く語った。同会では今後長期持続的経営を目指す企業の参加を広く呼びかけていく。具体的な活動として会員企業が参加する勉強会やシンポジウム、連携促進事業「100年経営の会」を主催し、海外企業との連携を促進する。また、懇親会や冒険者としての活動など、親睦を深める機会も設けられる。懇親会の冒険者としての活動は「経営のあり方などについて話を弾ませ、親睦を深める」とコメント。関係者からは「企業を大事にしてきた日本の長寿企業という新たな接点で結ばれた企業同士が、経営のあり方などについて話を弾ませ、親睦を深める」と歓迎する声も聞かれた。懇親会の冒険者としての活動は「経営のあり方などについて話を弾ませ、親睦を深める」とコメント。関係者からは「企業を大事にしてきた日本の長寿企業という新たな接点で結ばれた企業同士が、経営のあり方などについて話を弾ませ、親睦を深める」と歓迎する声も聞かれた。



△問い合わせ・申し込みは、100年経営の会事務局（03-5644-7608）へ

産業界の持続的発展を目指す

役員	氏名
会長	北畑隆生 元経済産業事務次官
理事長	千野俊彦 日刊工業新聞社顧問
100年経営会議議員	岡谷篤一 岡谷鋼機社長 茂木友三郎 キッコーマン名誉会長 岡村正 東芝相談役 宇野郁夫 日本生命保険相談役

理事	氏名
旭化成	伊藤一郎会長
出光興産	天坊昭彦会長
キリンビール	松沢幸一社長
神戸製鋼所	佐藤廣士社長
島津製作所	服部重彦会長
シマノ	木谷謙介社長
コーポレーション	山本駿一社長
昭和鉄工	鈴木健介副社長
鈴鹿浦鋸本店	川田達男会長兼社長
セーレン	竹村昭彦社長
司牡丹酒造	岡本知彦社長
ナベヤ	春日秀之社長
ニッケイフロン	大蔵卓麻会長
日本IBM	小林喜光社長
三菱ケミカル	ホールディングス
ホールディングス	井水治博社長
日刊工業新聞社	

監事	氏名
カインダストリーズ	遠藤安治社長
セラリカNODA	野田泰三社長

評議委員	氏名
関影商事	関正樹社長
日本ルンゴ	岡田民雄会長
ものづくり生命文明機構	福山裕幸理事

顧問	氏名
立命館	モンテ・カセル副総長
東京理科大学	塚本修学術政策教授
帝国データバンク	高津隆徳史料館館長
作家	北畑利

き継がなければなりません。その経営手法は世界に広げていく価値のあるものだと考えます。そこで、長期的な企業の持続を重視する企業で構成する「100年経営の会」を発足させることといたしました。国内外に発信することとを目的としております。アカデミアの皆さまの力を借り、海外の同じ思いを持つ企業と連携し、会員企業の皆さまと議論を重ねてまいります。長期持続的経営を實踐し、それを旨とする企業との交流の場として、日本経済の閉塞感を打開する原動力にできればと考えております。



100年経営の会会長 北畑 隆生

わが国の産業界は、先ごろの東日本大震災をはじめ、これまでに数多くの大災に見舞われながらも、これを乗り越えて発展を続け、また一度の石油危機の被害などを克服して不死鳥のごとく

よみがえってきました。20世紀後半から奇跡の復興を遂げ、世界第2位の経済大国になるなどアジアの新興国のモデルとなる経済成長を実現してきました。その主たる原動力は、幾多の試練を乗り越えてきた創業100年を超える長寿企業であり、その経営手法を本とした新興企業であり、また、日本企業の多くに共通する「長期的な企業の存続を重視する経営」は、世界に誇れる企業価値であると考えます。わが国には創業100年以上の長寿企業が世界の半数を超える2万2000社近くあるといえ、創業50年、60年を超える企業は枚挙にいとまがありません。これらの企業には、いくつかの共通点があります。長期的な経営視点を持ち、時代環境を読み取り不断の革新を繰り返してきたこと、短期的な利益の極大化

閉塞感を打開する原動力に

「100年経営の会」の理論化、アカデミズムとの連携

1. 「100年経営」の理論化、アカデミズムとの連携

長寿企業の取材や研究会活動を通して、長期持続性の要因を分析するとともに、企業が「これから100年」発展するための経営のあり方を追究し、「100年経営」として理論化し、経営指標の構築にも取り組む。危機を乗り越えて事業を継続してきた100年経営企業が有するノウハウや戦略をモデル化し、産業界や学会などに示す。

事業計画

2. 100年経営の価値を広く普及、シンポジウムの開催

100年以上持続発展してきた企業から、創業の精神や理念の持続をはじめ、危機克服の経験、環境変化に対するイノベーションなどを学び合い、100年経営の魅力を広く国内外に発信するため、シンポジウムやセミナーを開催する。

3. 100年企業の顕彰事業、ブランド化の推進

創業100年を迎えた企業を毎年顕彰し、長期持続経営によるわが国産業経済、地域社会への貢献を広く社会にアピールする。長期持続企業をブランド化し、国内外での信用性、信頼性の一段の向上に役立てる。

4. 海外との連携、海外への100年経営の情報発信、普及

海外の類似の長寿企業団体と、情報交換や会員同士の相互交流の場の設定などを目的とする。また、学会やウェブなどを通して、100年経営論の海外への普及を目指す。

5. 交流の場の設定

100年経営について相互に研さんし、それぞれの企業の経営強化につなげられる交流の場を設ける。地域を越えた交流を通して具体的に持続できる地域活性化への貢献を目指す。

閉塞感を打開する原動力に

より長期的な利益の増大を重視すること、何よりも顧客を大事にし、商品のブランドや企業のアイデンティティを重視すること、従業員を大切な資産だと考え、長期雇用を基本とすること、株主はもとより顧客、従業員、地域社会などのステークホルダーにもバランスよく配慮することなどがあげられます。これらは、「日本の経営」と称されることにより、多くの企業が実践し、その結果として企業間の交流の場として、日本経済の閉塞感を打開する原動力にできればと考えております。

閉塞感を打開する原動力に

き継がなければなりません。その経営手法は世界に広げていく価値のあるものだと考えます。そこで、長期的な企業の持続を重視する企業で構成する「100年経営の会」を発足させることといたしました。国内外に発信することとを目的としております。アカデミアの皆さまの力を借り、海外の同じ思いを持つ企業と連携し、会員企業の皆さまと議論を重ねてまいります。長期持続的経営を實踐し、それを旨とする企業との交流の場として、日本経済の閉塞感を打開する原動力にできればと考えております。

閉塞感を打開する原動力に

お問い合わせ先
日刊工業新聞社「モノづくり日本会議」事務局
TEL.03-5644-7608 FAX.03-5644-7209 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル
<http://www.cho-monodzukuri.jp/>

参加費無料
モノづくり日本会議 in あおもり 特別講演会

中小企業が支える地域の未来

日時 **2011年11月15日(火)** 10:00~12:20
併催 **一日中小企業庁 in あおもり** 10:00~19:00
会場 **ホテル青森 (青森市堤町1丁目1-23)**
主催 **モノづくり日本会議、日刊工業新聞社**
共催 **青森県**

東日本大震災からの早期復興とともに、環境・資源・人口の制約を乗り越え、安心・安全で持続的に成長可能な新しい産業社会システムを構築していくために、地域はこれまで大きな変革の時代を迎えています。優れた技術やオンリーワン製品を有し、企業連携力と情報力を武器に絶え間ない革新を続ける中小企業は地域にイノベーションを起こし輝かしい未来をもたらす先導役として期待されており、地域に根差した企業の担う役割は時を重ねるごとにその重要性が増しています。本講演会では「新しいモノづくり」「地域活性化」を中心テーマに、産業振興や新たな産業社会システムのあり方について情報発信していきます。

お問合せ先
日刊工業新聞社「モノづくり日本会議」事務局
TEL.03-5644-7608 FAX.03-5644-7209 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル
<http://www.cho-monodzukuri.jp/>

10:00~ **主催者挨拶**
日刊工業新聞社 専務取締役 佐野 友昭

10:05~11:00 **基調講演**
テーマ **「東日本大震災からの復興、あたらしいモノづくりと暮らしのパラダイムシフトに向けて」**
東北大学大学院 環境科学研究科教授 **石田 秀輝氏**

株式会社INAX (現LIXIL) を経て2004年から東北大学大学院教授に。ものづくりのパラダイムシフトに向けて国内外で多くの発信を続けている。地球村研究室代表、ネイチャーテック研究会代表、サステナブル・ソリューションズ理事、ものづくり生命文明機構理事、アースウォッチ・ジャパン理事ほか。

11:00~12:20 **トークセッション**
テーマ **「地域活性化へ卸問屋が果たす役割」**
金沢工業大学 産学連携室
コーディネーター **小松 俊昭氏**

1980年 日本開発銀行 入行
2004年 金沢工業大学 出向
2006年 日本政策投資銀行退職
金沢工業大学 産学連携室コーディネーター-就任
合同会社 東洋公室設立

協同組合青森総合卸センター
専務理事 **藤本 和夫氏**

1981年 青森総合卸センター 入所
2005年 青森総合卸センター 専務理事 (現在に至る)

有限会社津食のルネッサンス
代表取締役 **本田 勝之助氏**

2004年 津食津食のルネッサンス創業(地域の食と農業のプロデュース)。
2006年 株式会社ルネッサンス創業 (日本伝統産業の復興事業立ち上げ、コンサルティング)。

併催
【お問い合わせ先】事務局 日刊工業新聞社 TEL.017-734-9366

『一日中小企業庁 in あおもり』
～東北の元気、日本の元気を青森から～ 10:00-19:00

13:00～14:30 **3階 孔雀 東南の間**
中小企業フォーラム
～東日本大震災 東北の復興は青森県から～
主催 青森県 中小企業庁 東北経済産業局

①主催者代表挨拶
②来賓紹介
③中小企業施策の紹介
④県内中小企業による産学連携事例の紹介
武蔵水産(株) 代表取締役社長 武輪 俊彦

14:45～17:00 **3階 孔雀 東南の間**
あおもり産学官金連携推進フォーラム
～産学官金の連携があおもりの企業を元気に～
主催 (独)中小企業基盤整備機構東北支部 / イノベーション・ネットワークあおもり

①開会挨拶
②イノベーション・ネットワークあおもり 第1回産学官金ラウンドテーブル開催報告 青森県知事 三村 亨
③特別講演 「イノベーションと産学連携の落とし穴 ～ビジネスモデルを検討しない地域企業が直面する課題～」 産学連携推進センター/一橋大学大学院研究科 (IIB) 客員教授 妹尾 聖一

12:00～17:15 **3階 孔雀 西の間**
第5回東北地域イノベーションフォーラム
主催 (独)科学技術振興機構
JSTイノベーションサテライト岩手

県内中小企業や東北北3県の研究機関の技術、取組をご紹介し、企業ニーズと研究シーズのマッチングを行います。

10:00～17:00 **4階 桜・樟の間**
一日中小企業相談室
協力 日本弁護士連合会 / 青森県弁護士会

法律、金融、農工商連携・地域資源・新連携など、中小企業に関する様々なご相談、弁護士や国・県・支機関等が対応しますので、是非ご利用ください。

10:00～17:15 **3階 ホワイエ**
中小企業施策普及コーナー
国・県・支機関の各施策のパンフレット、資料配布を行います。

17:15～19:00 **3階 あずなろ** はまなすの贈
交流会 (会費 3,000円)

中小企業者と国・県等の行政機関、支機関が一室に集う交流・情報交換の場です。お気軽にご参加ください。